

● 新入生へのメッセージ ●

「若人の心を育てる

キャンパスでの学生生活」

院長・学長 星 宮 望



東北学院はキリスト教を基本とし

て若者の教育を行うために創立された学校です。一八八六年（明治十九年）に創立されてから、昨年で百二十周年を迎えました。私たち東北学院に連なる者は、創立者の押川方義先生および W・E・ホーイ先生と D・B・シュネーダー先生の三人を校祖とし、これらの先生方の努力によって確立された建学の精神を大切にしたいと思っています。このことをあらわす教育方針に関する「宣言」を東北学院理事会で制定いたしました

た（東北学院時報、第六五五号（平成十八年十二月十五日）に掲載）。

『東北学院創立百二十周年を機に、本学院教育の基本方針を再確認し、ここに宣言する。』

東北学院は創立以来、本法人に所属する各教育機関において一般の教育・研究活動と共に福音主義キリスト教に基づく宗教教育を一貫して行ってきた。今後ともそれぞれの教育機関は、正規の学校行事としての礼拝と正課必修としてのキリスト教教育を不変のこととして実施していくも

のとす。

平成十八（二〇〇六）年

七月二十一日

学校法人東北学院理事会』

この建学の精神は、具体的には、学生全員に対するキリスト教に関連した授業、また毎日行われる礼拝などの行事に示されています。私自身、東北学院の中学校・高等学校で六年間学びました。この間、通常の授業以上に、毎朝の礼拝や「聖書」の授業を通して「心の糧」となる多くのことを学んだことを今でもよく覚えていいます。本学は、どの大学よりも「若人の心を育てる」ことを重視している大学です。現在、三つのキャンパスに分かれておりますが、それぞれのキャンパスにおいても若人の心を育てるキャンパスであるよう

の心をしっかりとしたもの育てていただきたいと思えます。人生においては、必ずしも自分の思ったような、あるいは計画したとおりの人生になっていないと思うことがしばしばあります。特に、高等学校から大学を受験し、希望の大学や学科に進めなかったときには強く感じることもあるでしょう。

これは主として、高校での勉強の仕方や入学試験制度に起因しているといつてよいでしょう。客観的に公正な入学試験をしようとすれば、どうしても高校で学んだ教科書に記載されている事項を中心として、答がはっきりしている問題を解くような試験になってしまいます。そうすると、答がわかっている問題をすばやく解くことの競争になります。時には、正確で速い記憶の呼び出し能力をテストすることにもなっています。しかし、実際の社会において

遭遇する問題には簡単に解を出せないことがありますし、場合によってはいくつもの解があって、そのどれを選択するかが重要になることもしばしばです。このことは大学における学びにおいては特に気をつけていただきたい点でもあります。大学においても高校の時と同じような勉強を続けることによってもある程度の成績をあげることが出来るかもしれませんが、自分が真の実力はつきません。自分から積極的に学ぶことと、そして同時に、何のために何を学ぶかを良く考えていただきたいと思えます。そして、自分と異なる経験を有する友人との交流を通して視野を広くする努力をして欲しいと思えます。私の経験から言っても、高校や大学での成績が良かった人が、必ずしもその後重要な役職についたり、充実した人生を送ったりしているとはいえないように思います。特に、大学

卒業後の同級生あるいは研究室の卒業生などの社会に出てからの活躍を見てその感を深くしております。学生時代にすぐ成績が良かった友人（あるいは学生）でも、受け身の学



土樋キャンパス

びの姿勢のまま、視野が狭く自分中心な行動をする人には重要な仕事が行ってこない傾向があるように思えます。その反対に、若いころから「世話役の心」の重要性を認識して

いて、それを学生時代から、そして社会にでてからも実行している人には自然に重要な仕事が行ってくるように思います。例えば、会社で係長、課長、部長というように昇進するにつれて、次第に多くの人の世話をすることになります。責任を持つようになってから気がついて遅いのです。学生時代から、後輩の世話をしたり、異なった環境で育った友人と上手にコミュニケーションを行って個々の人の希望や主張をまとめたりするコツを身につけておくことが重要であると思えます。

大学生生活においては、将来の仕事のために役立つ知識を吸収することです。是非、東北学院大学に在学中に、人生をたくましく、自信を持って生きてゆくことのできる知恵と知識を吸収し、大いに実力をつけてい

ただきたいと念じますし、また、それは十分に可能であると思えます。我々教職員は、それらを皆さんに提供することができると考えております。しかし、もっと重要なことは、これから大きく変化してゆくと予想される社会で生き抜き、かつ、貢献していくために、しっかりした「心」を育てることです。「世話役の心」もその一例であると思えます。本学では、「若人の心を育てる」ことを重視し、その基本を「聖書の教え」においています。すなわち、毎朝の礼拝で聖書の言葉に触れ、説教者の話にて耳を傾けながら自分を見つめる習慣を持っていたいただきたいと思います。

皆さんが楽しく充実した大学生活を送られるよう念じております。

「学生のためのオルガン公開講座」
開催のお知らせ

大学オルガニスト
今井奈緒子

この講座は、昨年度から新たに開催され今年度で第二回目を迎えます。

礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝堂のオルガンを用いて指導します。

単位に関係のない講座ですので複数年継続して受講することも可能ですし、受講場所は、所属のキャンパス

スに関係なく選択できます。

◇受講資格

楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏に多少なりとも心得のある方

◇対象

本学に在籍する方(所属学部、学部生・大学院生を問わず)

◇内容

オルガンの奏法と作品を学ぶ(個人またはグループレッスン形式)

◇場所

土樋・多賀城・泉、各キャンパス礼拝堂

◇受講料

年間一五〇〇〇円

◇期間

通年(月二回、計一〇回程度)

◇募集人数

各キャンパスとも若干名

◇講師

小野なおみ(土樋担当、本学礼拝オルガニスト)

菅原淑子(多賀城担当、本学礼拝オルガニスト)

今井奈緒子(泉担当、教養学部教授、大学オルガニスト)

◇説明会開催日

受講希望の方は所属キャンパスに係わらず全員、四月一九日(木)一四時三〇分に、泉キャンパス音楽研究室(礼拝堂一階。シラバス参照)前へお集まりください。
 講師を交えてレッスンの相談、調整等を行います。

出席不可能な場合は事前に宗教音楽研究所までご連絡ください。
 (〇二二一三七五一一八五)

なお、希望者多数の場合は相談、抽選ないし後日オーディションをさせていただきます場合がありますのでご了承ください。



泉キャンパス礼拝堂オルガン



多賀城キャンパス礼拝堂オルガン



土樋キャンパス礼拝堂オルガン

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

大学生としての歩みがいよいよ始まります。高校までの間、さまざまな制約があつてなしかつてきたことをこれからはやるぞと意気込んでおられることと思ひます。是非、自分の頭で考え、自分らしいスタイルを確立していただきたいと思ひます。大学はそのような生き方

泉キャンパス



主任 教務長 泉 永井 義之

をするのに適した環境です。受験体制の中ではあまり考へることなかったこと、たとえば古典的テーマである、人生とは何かとか、人間とは何者かとか、世界はどうなつていっているのか等々考えはじめればいくら時間があつても足りない大問題が次々と思ひ浮かぶことでしょう。大学での諸設備

東北学院大学工学部へ入学した新入生のみなさん、入学おめでとう。

多賀城キャンパス



主任 教務長 野村 信

桜の満開の多賀城キャンパスで、整った施設を用いて大いに勉強し、友と語らい、青春を楽しんでください。

とと思ひます。最初に抱いた良い志を持続させて、それぞれの目標に前進してください。さて、私は、多賀城キャンパスの宗教活動を担当してまいります。よろしくお願ひします。毎週、火曜日に講義がありますので、この日、みな

教師や友人とのかわりなどを大いに利用して自分という人間を確立する充実した大学生活を送られるように声援をしたいと思ひます。礼拝の時間も自分を振り返り、皆さんがいろいろ考へるヒントを得る場として積極的に活用してください。

各キャンパスのメッセージ

さんと接する機会があると思ひます。午前の礼拝を担当し、また火曜日は、お昼に軽食を取りながら聖書を学ぶ会をしています。午後は、カウンセリング室にて待機しています。気軽に訪ねてください。

土樋キャンパス



主任 教務長 北 博

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、三年生に進級して泉キャンパスから土樋キャンパスに移られた皆さん、ようこそ土樋キャンパスへ。土樋キャンパスのラーハウザー礼拝堂では、日曜と祝日を除く毎朝一〇時から一〇時半まで行われる礼拝の他、特に夜間主コースの学生達のために、水曜日の午後七時一〇分から七時四〇分まで礼拝が行われます。授業の合間に出来るだけ出席するように心がけてください。

次のような聖書の言葉があります。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」(マタイによる福音書七章七節)。勉強も、運動やサークル等の活動も、問題意識を携えて積極的に行うことが大切です。チャレンジ精神で様々なことにぶつかって下さい。学生の間に、出来るだけ自分探しをしてみましょう。新たな気持ちで新学期に臨んで下さい。

היתה תורה ונבואה וקשף על פני תהום ורחם אלהים מרחם
 המים: 3 ויאמר אלהים יהי אור ויהי אור: 4 ויקרא
 האור כירקוב ויבדל אלהים בין האור ובין החושך
 אלהים לאור אים ויאמר קרא לילה ויהי ערב ויהי
 אחר: 5 ויאמר אלהים יהי רקיע בתוך המים
 בין מים למים: 7 ויעש אלהים את הרקיע ויבדל בין
 מקמת לרקיע ובין המים אשר מעל לרקיע ויהי יום
 אלהים לרקיע שמים ויהי ערב ויהי בקר ויום שני
 ויאמר אלהים יקו המים מקמת השמים אל מקום
 תבשלה ויהי קו: 10 ויקרא אלהים לרקיע ארץ ויל
 קרא ימים ויקרא אלהים כירקוב: 11 ויאמר אלהים תן
 ידשא עשב מוריש זרע עץ פרי עשה פרי למיני אר

キリスト教 Q & A

1 *Ἐν ἀρχῇ ἦν ὁ λόγος, καὶ ὁ λόγος
 καὶ θεὸς ἦν ὁ λόγος. 2 οὗτος ἦν ἐν
 3 πάντα δι' αὐτοῦ ἐγένετο, καὶ χωρὶς
 ἑν'· ὁ γέγονεν· 4 ἐν' αὐτῷ ζωὴ
 φῶς τῶν ἀνθρώπων· 5 καὶ τὸ φῶς
 καὶ ἡ σκοτία αὐτὸ οὐ κατέλαβεν.
 6 Ἐγένετο ἄνθρωπος· ἀπεσταλμὸς
 αὐτῷ Ἰωάννης· 7 οὗτος ἦλθεν ἐν
 τυρήσει περὶ τοῦ φωτός, ἵνα πάντες
 8 οὐκ ἦν ἐκεῖνος τὸ φῶς, ἀλλ' ἵνα
 φωτός. 9 Ἦν τὸ φῶς τὸ ἀληθινὸν
 ἄνθρωπον,· ἐρχόμενον εἰς τὸν κόσμ
 ἦν, καὶ ὁ κόσμος δι' αὐτοῦ ἐγένετο
 οὐκ ἔγνω. 11 εἰς τὰ ἴδια ἔβλεπ*

Q キリスト教大学って？

近代日本の教育の歴史を振り返って見ると、欧米列強に伍するため、国民教育の目標は富国強兵にありました。特に大学を設置することによって有能な官吏を養成することに第一の目標が置かれました。ですから、国立の大学は全て男子のみで、そこで専門的な職業訓練、学術研究がなされました。これに対し、私塾的なものからスタートした私立学校は官立校がまだ目を向けていなかった幼児教育、女子教育等にバイオニア的役割を果たしました。高等教育に関しても、私学は専門学校という形で「教養」即ちリベラル・アーツを基本とする教育が行われました。

明治三十三年、「訓令十二号」という文部省通達が出され、キリスト教学校に致命的打撃を与えました。これは、宗教教育、宗教儀式をすれば文部省認可の学校と認めないというものでした。従来、公認の「学校」では上級学校進学資格と徴兵猶予の特典が与えられていましたから、それらを放棄しても聖書の教育と礼拝を捧げる道をキリスト教学校は選びとったのです。

戦後、新制大学がスタートするとキリスト教学校も制度を整え、キリスト教大学が公教育の一端を担うようになりました。これは特に戦後の日本国憲法を基礎に置き教育基本法において明示された「人格の完成を目指し、平和的な国家及社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人

の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成をする」という理念の実現にキリスト教大学こそが応えうるとの確信によるものです。

(永井 義之)



多賀城キャンパス

東北学院大学の高等教育機関としての営みは、人間の知恵や力量だけでなく、神の愛とめぐみによって導かれていると認識されています。そのような自己認識は、大学設置の基本理念であり、また、東北学院創立以来二二〇年の歴史と伝統の中で保持されてきた建学の理念です。大学礼拝は、そのような東北学院大学固有の価値観、換言するならば、東北学院の建学の精神を具体化する公の行事です。しかも、礼拝は、仙台神学校創立以来、毎日行われる営みの一つになっております。

東北学院大学は、余った時間ではなく、価値を見いだした対象にふさわしい最良の

Q 礼拝で出席番号を読み取るのは何のため？

東北学院大学の高等教育機関としての営みは、人間の知恵や力量だけでなく、神の愛とめぐみによって導かれていると認識されています。そのような自己認識は、大学設置の基本理念であり、また、東北学院創立以来二二〇年の歴史と伝統の中で保持されてきた建学の理念です。大学礼拝は、そのような東北学院大学固有の価値観、換言するならば、東北学院の建学の精神を具体化する公の行事です。しかも、礼拝は、仙台神学校創立以来、毎日行われる営みの一つになっております。

時間をもって礼拝を執行して
います。それ故、その時間に
対し、教育機関としての責任
があります。また、東北学院

大学の学生は、大学礼拝に参
与するはずであると期待され
ています。即ち、大学礼拝に
参与することは、東北学院大
学の学生の特権であり、また、

東北学院のアイデンティティ
そのものなのです。

東北学院大学は、大学礼拝
に対し無関心ではありませ
ん。見いだした価値にふさわ
しく、私達の熱情や努力を捧
げたいと願っています。それ
故、今、どのような大学礼拝
が行なわれているかをきちん
と把握すること、例えば、学
生番号読み取り機によって
大学礼拝出席の状況を把握す
ることは、自己評価の責任を
果たす第一歩であると考えて

おります。皆さんの大学礼拝
への参与は、見過ごされるの
ではなく、確かに覚えられる
ものなのです。

(佐々木哲夫)

Q
キリスト教学は
なぜ必修なの？

東北学院大学へ入学した皆

さんが、毎日の大学礼拝に出
席し、キリスト教学を学ぶこ
とは、東北学院大学の学生で
あることの証しであり、また
これを前提条件として大学に
入学してこられたのです。そ
こで、キリスト教学が必修な
のは、本学の方針であるつま
ず説明できます。
しかし、二番目に、なぜキ
リスト教学が必修なのかは、
もっと基本的な理由がありま
す。

そもそも日本の教育制度は、
明治維新の後に、キリスト教
の世界から産み出された西洋
近代教育を学び、これを採用
してきましたので、この教育
制度の生みの親たるキリスト
教について学ぶことは、教育
学問の根底をなす学びである
と説明できます。

私達の人生と社会の根本に
神との関係によって理解され
産み出されてきた様々な制度
や構造があることに気づいて
いるでしょうか。例えば、法
治国家としての規律、秩序、
契約という概念や、さらに民
主主義や資本主義、教育制度、
医療・福祉制度、あらゆる領
域がキリスト教世界から生み
出されて発展してきたもので
あることを否定することがで
きないのです。そこで、私た
ちは、広くキリスト教の教え

とその世界観を学ぶことによっ
て、私たち自身と現代社会を
豊かに学ぶことができるので
す。そういう点で、皆さんも、
このような視点から礼拝を重

んじ、キリスト教学を積極的
に学んでいって欲しいと思っ
ます。
(野村 信)

2007年度 礼拝オルガニストの皆さん

東北学院大学オルガニスト
今井 奈緒子

東北学院大学礼拝オルガニスト

- | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 赤大 | 澤泉 | 喜代子 | 阿小 | 部野 | 和な | 子お | 稲亀 | 垣井 | 玲睦 | 子子 |
| 大京 | 泉極 | 眞美 | 小坂 | 野上 | な美 | おみ | 佐々 | 井木 | しの | ぶ子 |
| 鈴木 | 極木 | 扶紀 | 坂菅 | 上原 | 美淑 | 恵子 | 高 | 橋 | 園 | |
| 長谷 | 部 | 有紀 | 菅渡 | 原辺 | 真 | 理 | | | | |



